

令和5年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・低学年では、指先を使う活動を多く取り入れることにより、体全体の感覚を高めるとともに素材に慣れることができた。
- ・中学年では、様々な用具や描画材の扱いや、技法を経験させることにより、それらの特徴を生かした表現をすることができた。
- ・高学年では、既習事項を生かして表現に適した方法を組み合わせて表すことができた。

(2) 課題

- ・時間配分や手順を意識し、後片付けまで見通しをもって取り組む態度を身に付けさせる必要がある。
- ・自分のイメージに合った材料や用具を選び、主体的に表現する力を伸ばす必要がある。
- ・自分が感じたり考えたりしたことを、誰かに伝えたり、互いのよさを認め合ったりすることができる姿勢を身に付けさせる必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
はさみ、のり、絵の具、クレヨンなどの基礎的な使い方を体験的に学ばせ、楽しみながら慣れることができるようにする。	様々な材料と関わる造形活動を通して、楽しみながら体全体を働かせ、自分の感覚でものを見たり感じたりできるようにする。	場の設定や材料を精選し、体全体の感覚を生かして思いのままに表せるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
釘、のこぎり、金づちなどの扱い方について、手順や注意点を理解させ、安全・適切に使うことができるようにする。	思い付いたことを表すために、材料や用具の特徴を生かして使わせ、活動の中で自分の見方・考え方をもてるようにする。	児童の実態に合った課題を設定し、自分の思いをもって造形的な活動に取り組めるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習の用具・素材から自分の表現したいものに応じて活用できるようにする。	既習事項を組み合わせるなど、自分なりに表現方法を工夫させ、活動の中で自分の見方・感じ方を深められるようにする。	児童の実態に合った課題を設定するとともに、児童の思いや工夫を肯定的に受け止め、自信をもって活動できるようにする。